



ネットおよびゲームによる依存症対策について（案）

2024年4月
山形市立第七小学校PTA

はじめに

P-1

- 子どものネット・ゲーム利用時間が増加しており、それに伴ってオンラインゲームの問題も増加している。中でもよく話題となり子供への影響が懸念されるのが「バトルロイヤル系ゲーム」である。
- ゲームに起因するトラブルは、主に「**子ども自身の暴言**」「**仲間はずれなどのいじめや人間関係トラブル**」「**高額課金**」「**長時間プレイなどの依存問題**」「**知らない人とプレイすることでの個人情報漏洩や出会い系被害**」の5つに大別される。
- ゲームは携帯電話やSwitchなど色々な端末で遊ぶことが可能だが、バトルロイヤル系ゲームは「15歳以上を対象にレーティングされたゲーム」が多く、15歳以下の子どもには、性表現系、暴力表現、反社会的行為表現系、言語・思想関連表現系で問題とされるという意味となる。
- 以上を踏まえ、子供達の安全や健康（ゲーム依存症）を守るために、一定のルールを定め健全な育成を阻害しない対策が必要であることから、学校とPTAが連携し対策について検討したものである。

ゲームと“いじめ”の関係

P-2

- トラブルは、主に「子ども自身の暴言」「仲間はずれなどのいじめや人間関係トラブル」「高額課金」「長時間プレイなどの依存問題」「知らない人とプレイすることでの個人情報漏洩や出会い系被害」の5つに大別される。
- 「子ども自身の暴言」と「仲間はずれなどのいじめや人間関係トラブル」はつながっている。子どもがゲームで悪口や暴言を吐くようになり、その結果いじめや人間関係トラブルにつながる例はとても多い。
- 子どもがボイスチャットで『死ね、消えろ』と口汚く罵り合いをしている姿を見てショックを受けたり、ボイスチャットができない子がグループにいて、その子の悪口を堂々と言ったりすることもある。『キックされた』とか落ち込んでいたこともあるし、もうやらせたくないと感じる親も多数いる。
- 「キック」、つまりグループから外されて、仲間はずれになったという話も多い。チームプレイで生き残りをかけて争うため、下手だという理由でグループから「キック」されてしまうのだ。これが、学校での仲間はずれやいじめにつながる例もある。
- 暴言やいじめ問題は、**そもそも殺し合いをするバトルロイヤル系ゲームなので起きやすい。**
- **ゲームの対象年齢（CERO）**は、このような問題を未然に防止するために設けられたレーティングなのだ。自分の子どもが暴言やキック問題などを周囲に影響されずにスルーできるのかどうか考えた上で、利用させる必要がある。

『フォートナイト』等のオンラインゲームで子どもに起きている5つのトラブルと保護者がすべき対策とは（高橋暁子 | ITジャーナリスト引用）

山形市立第七小学校 P.T.A

CERO とは （特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構）

P-3

「CERO」は、コンピュータエンターテインメント文化の発展にともないコンピュータゲームの多様化が進行するなか、ゲームソフトの年齢別レーティングを実施することにより、一般市民やユーザーに対しゲームソフトの選択に必要な情報を提供し、青少年の健全な育成を計り且つ社会の倫理水準を適正に維持することを主たる目的とする。



15歳以下の子どもには、性表現系、暴力表現、反社会的行為表現系、言語・思想関連表現系で問題とされるという意味。年齢区分にはそれだけの意味があり、守ったほうが安心。それでもやりたい、やらせたいのであれば、**保護者による見守りは必須。**

山形市立第七小学校 P.T.A

ゲーム障害（依存）とは

P-4

- ゲーム障害は、ゲームに熱中し、利用時間などを自分でコントロールできなくなり、日常生活に支障が出る病気です。WHO（世界保健機関）では新たな病気として2019年5月に国際疾病分類に加えました。
- とくに未成年者では、前頭前野の働きが十分に発達していないため、ゲーム障害が起こりやすく、将来にわたって影響が続く可能性があると考えられています。

ゲーム障害の兆候

- 使用時間がかなり長くなった
- 夜中まで続ける
- 朝起きられない
- 絶えず気にする
- ほかのことに興味を示さない
- 注意すると激しく怒る
- 使用時間や内容などについて嘘をつく
- 課金が多い

ゲーム障害で起きた問題 (120人)



ゲーム障害で起きた問題 (120人)



「やめられない怖い依存症！ゲーム障害はひきこもりの原因にも 治療法について」NHKホームページ引用
山形市立第七小中学校 P.T.A

課題の整理

P-5

- 全保護者を対象としたアンケート結果（2020年度実施）から、「ゲーム等の悪影響が心配」「ゲーム等の制限が必要」と考えている保護者が多数であった。
- 七小においても睡眠不足による集中力の低下や攻撃性のある言動や行動が確認されており、他人事ではなく身近な問題として考える必要がある。
- 特に、バトルロイヤル系ゲームは、ボイスチャットにより不特定多数の方と会話できる特徴を持ち、トラブルとなる事例も全国的に多くなっている。主なトラブル事例としては「子ども自身の暴言」「仲間はずれなどのいじめや人間関係トラブル」「高額課金」「長時間プレイなどの依存問題」「知らない人とプレイすることでの個人情報漏洩や出会い系被害」が挙げられる。
- 保護者の目が届かない中でトラブルに巻き込まれる可能性があること、また、夜遅くまでゲームをすることで「朝起きられない」児童がおり勉強に集中できないことが目に付く状況が既に七小でも確認されている。
- 未成年の場合、前頭前野の発達が十分な状態でないため、大人と比較しゲーム障害に陥りやすい。
- アンケート調査（2020年度実施）から「言葉遣いが乱暴になる」「ゲームがやめられない」など、ゲーム障害の兆候となる状況が既にあることが確認されており、「うちは大丈夫」と甘い考えで見逃してしまうと取り返しのつかない状況になることも十分に想定できる。
- アンケート調査（2020年度実施）では各家庭における問題意識の高さや対策の必要性および具体的な悩みを把握できたことから、これら課題解決にむけ、学校と保護者が問題意識を共有し一体感を持って対策を図っていくことが重要と考える。

山形市立第七小中学校 P.T.A

七小PTA ゲーム等依存症対策推奨宣言

P-6

多くの保護者の方にご協力いただいたアンケート結果を踏まえ、学校・保護者が一体となり2024年度のPTA重点活動としてゲーム依存症対策を推進する。(2021年度からの継続)

子供をゲーム依存や仲間はずれ等のいじめ及び睡眠不足による集中力の低下等に起因する学力の低下を防止するため、学校・保護者が一体となり以下の項目に積極的に取り組むことを推奨する。

<共通>

- インターネット及びゲーム等を使用する時間の目安は以下のとおりとし、各家庭で実態にあった具体的なルールを定める。なお、本対応が難しい場合は、これまでより少しでも使用時間を短くするルールを各家庭で定める。
 - 学校の日：60分
 - 休みの日：90分
- お友達の家でのWi-Fiに無断で接続して遊ぶことは禁止とする。

<保護者>

- 年齢制限（CERO）を超えるゲームは原則禁止とする。なお、どうしてもプレイする必要がある場合は、保護者の目が行き届く状態で実施する。
- 子供が使用するゲーム等は、みまもり設定等の制限機能を活用すると共に、「課金した過去の履歴を利用した再課金」や「クレジットカード番号管理」を徹底し、「他の人との自由なコミュニケーションの制限」「ダウンロード購入・課金の制限」を必ず行う。
- 子供が我慢している時間は、保護者もゲーム・インターネットは使用しない。
- 自宅のWi-Fi接続に係るパスワード管理を徹底し、他人が勝手に接続できない・させない環境とする。
- 子供の睡眠時間は「低学年：10時間」「中学年：9時間」「高学年：8時間」を最低確保するように取り組む。(高学年：6時起床の場合、22時就寝、低学年：6時起床の場合、20時就寝)

<学校>

- インターネット及びゲーム等の長時間使用に伴う悪影響（脳への影響及びいじめ等）及びインターネット等の正しい使用方法等情報モラルについて継続して指導する。
- 言葉使いや、友達を思いやる気持ちなど、協調性を養う指導を行う。